被災者の痛みを最大限に和らげ、魅力ある未来に繋げる　西原型災害公営住宅の提案

参加者番号；

新たな集落　山西のくらし

■基本方針

「あんしん」　・被災して失ったこれまでのくらしを取り戻す環境づくり
・次世代基準の住宅性能により、被災者にかかるランニングコストを低減

「あたたかさ」　・地域特有の気候に配慮した住戸配置
・県産材をふんだんに利用したあたたかみのある木のすまい

「ふれあい」　・居住者間のコミュニケーションや高齢者の見守りに配慮
・地域コミュニティと集落をゆるやかにつなぎ、親しみのもてる団地へ

「みらい」　・子育て世代や移住者も心地よく暮らせる魅力ある未来に繋げる住環境を整備

■山西敷地特性

・敷地北側は雛壇地形
・地域交流スペースに隣接
・まつぼり風の影響を受けやすい

■配置ダイアグラム

①メイン通路の設定　②小径の設定　③区域の設定　④ユニットの設定

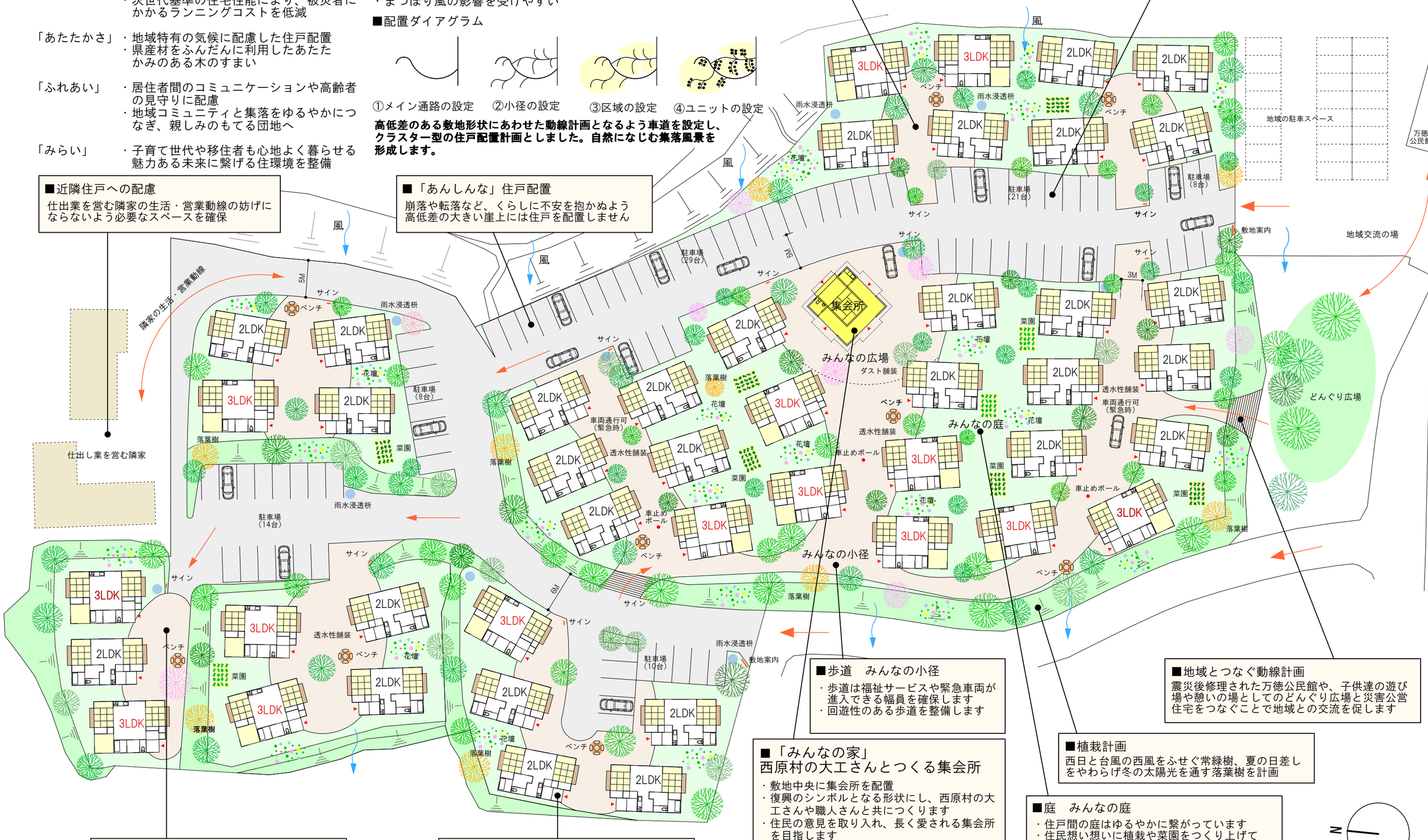
高低差のある敷地形状にあわせた動線計画となるよう車道を設定し、クラスター型の住戸配置計画としました。自然になじむ集落風景を形成します。

■「ふれあい」のある住戸配置
・玄関と庭を向かい合わせ、ふれあう機会の多い見守り型プラン
・高齢者向けの2LDKと子育て世代向けの3LDKの配置を混在させ多世代間の交流を促します

■駐車場
・道沿いに駐車場を設け、敷地の合理的な利用をします
・車道と歩道を分離し安全な環境を目指します

■近隣住戸への配慮
仕出業を営む隣家の生活・営業動線の妨げにならないよう必要なスペースを確保

■「あんしんな」住戸配置
崩落や転落など、くらしに不安を抱かぬよう高低差の大きい崖上には住戸を配置しません



■地形を生かす
現状の雛壇地形を活かした住戸配置にします
高低差を緩やかに処理しUDに配慮します

■まつぼり風 対策
春と秋に山から吹き降ろす地域特有の強風に対して影響を受けにくい西側に玄関を配置

■「みんなの家」
西原村の大工さんとつくる集会所
・敷地中央に集会所を配置
・復興のシンボルとなる形状にし、西原村の大工さんや職人さんと共につくります
・住民の意見を取り入れ、長く愛される集会所を目指します
・将来的に震災前より、より発展してほしいとの想いをこめたシンボリックな屋根
・軸性のない正方形平面とし、誰もがどこからでも立ち寄りやすくします

■歩道　みんなの小径
・歩道は福祉サービスや緊急車両が進入できる幅員を確保します
・回遊性のある歩道を整備します

■庭　みんなの庭
・住戸間の庭はゆるやかに繋がっています
・住民想い想いに植栽や菜園をつくり上げていくことで集落に広がる「みんなの庭」になります
・植栽の管理や清掃活動を通じて集落コミュニティの形成につながります

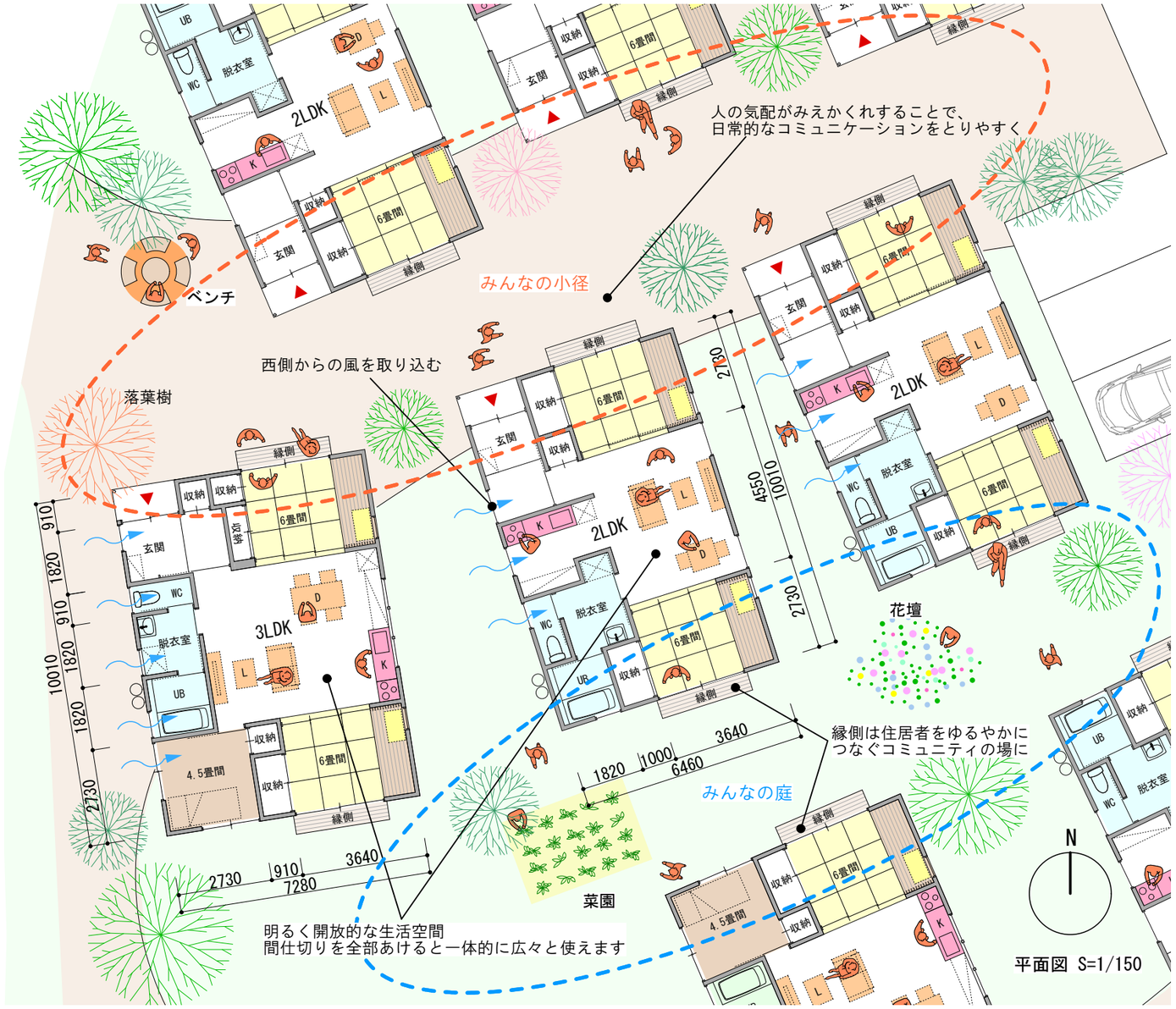
■植栽計画
西日と台風の西風をふせぐ常緑樹、夏の日差しをやわらげ冬の太陽光を通す落葉樹を計画

■地域とつなぐ動線計画
震災後修理された万徳公民館や、子供達の遊び場や憩いの場としてのどんぐり広場と災害公営住宅をつなぐことで地域との交流を促します

N

配置図 S=1/500

参加者番号；



■住宅性能・・・被災者の痛みを最小化

・公営住宅こそ高断熱・省エネ住宅、２０３０年基準の断熱省エネ基準としランニングコストの掛からない快適な住空間にします。
・住戸内の温度差を無くし、ヒートショック等の影響を少なくした健康に暮らせる住まいづくりを目指します。
・調湿性能を持ち１００％の施工が出来る断熱材を採用し、遮熱シート・ホルムアルデヒドを吸着分解する通気ボード等を使用します。
・性能維持のためLow-Eガラスを使用した断熱サッシを採用します。
・住宅性能評価で耐震・省エネ・劣化・維持管理など全てバランスの取れた快適な住まいを作ります。
・基礎断熱として床下空間も室内と同じ温度湿度として、床暖房無でも足元の寒さを防ぎます。
・熊本県産材（木材）を使用し、熊本県の循環型林業に貢献します。

■色彩計画・・・西原村らしい景観づくり

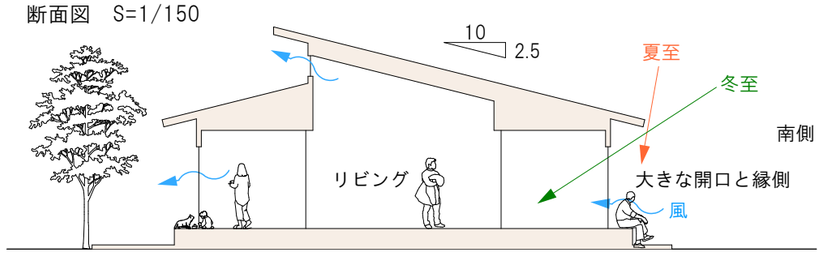
西原村の周辺環境になじむ屋根や外壁の素材、色を選定し、
「くまもとカラートーン」に応じた色彩計画とします。

■平面計画

・玄関の向きに左右されない平面計画
・ ゆったりとした玄関土間
・ 可変性のある間仕切り
・コミュニティスペースとなる和室・縁側
・ バリアフリー
（フラットな床、介助しやすい水まわり、引戸）

住戸面積
2LDK　63.00㎡　　3LDK　71.21㎡

■断面計画

・南北開口部を掃き出し窓とし、住まい方によりサブリビングや寝室を使い分けることができます。
・招き屋根により強風の影響を分散します。
・高窓を活かした採光と換気

断面図　S=1/150